

関係機関長 殿

沖縄県病害虫防除技術センター所長
(公 印 省 略)

病害虫発生予察技術情報について

令和 2 年度病害虫発生予察技術情報第 3 号を公表したので送付します。

令和 2 年度 病害虫 発生 予察 技術 情報 第 3 号

カンキツにおけるミカンサビダニ、ミカンハダニ、 かいよう病、黒点病の防除対策について

病害虫防除員報告(本島北部)によると、カンキツにおけるミカンサビダニは10月～2月まで多発生でした。ミカンサビダニは芽の鱗片内で越冬するため、今年の収穫期においても発生が増加する恐れがあります。そのほか、ミカンハダニの越冬卵やかいよう病の越冬病斑、黒点病の枯枝での越冬量を減らすために、春季の防除対策を徹底しましょう。

1 生態

ミカンサビダニ類

- (1) ミカンサビダニは果実と葉に寄生する。
- (2) 体長 0.1～0.2 mm の紡錘形～くさび形のダニで、肉眼での観察はやや困難である(図1)。
- (3) 新芽に寄生した場合、暗褐色のちりめん状となり落葉する。
- (4) 被害果の果皮は黒褐色～赤褐色を呈し著しいさび症状を引き起こしサメ肌果となる(図2、3)。
- (5) 1世代の発育期間が短く、爆発的に発生することもある。梅雨明け以降に発生が多くなる。

ミカンハダニ

- (1) ミカンハダニは葉、緑枝、果実などに寄生する。
- (2) 雌成虫の体長約 0.5 mm、体色は鮮やかな紅色で、肉眼でも確認できる(図4)。
- (3) 寄生吸汁による葉のかすれ症状がひどい場合は、葉全体が白っぽく見えるようになる(図5)。
- (4) 果実が加害されると、着色が遅れたり光沢が損なわれる。
- (5) 周年発生し夏と秋にピークを持つ。

かいよう病

- (1) かいよう病は葉、緑枝、果実に発生する。
- (2) 病斑は点状から始まって2～10 mmに拡大し、その周囲に黄色のふちどりが生じる(図6、7)。
- (3) 伝染源は樹上の葉、枝などの病斑であり、新しい病斑ほど重要である。
- (4) かいよう病の病原菌は、気孔や傷口から感染し、風雨によって広範囲に飛散する。台風やハモグリガによる葉や枝の傷口は感染を助長する。

黒点病

- (1) 黒点病は葉、緑枝、果実に 0.1～0.5 mm ほどの黒点を形成する(図8、9)。
- (2) 枯枝直下の果実は濃厚感染し、雨滴の流れに沿った涙斑状や泥塊状の病斑を形成する。
- (3) 病原菌は枯枝で越冬し、この枯枝が唯一の伝染源となる。
- (4) 黒点病は水媒伝染性の病害で、被害は落花後から収穫前までの降雨に左右される。

2 防除対策上注意すべき事項

- (1) ミカンサビダニ、ミカンハダニは越冬量を減らすためマシン油乳剤で防除する。夏期以降は収穫時期の多発を抑えるため、効果の優れた殺ダニ剤を散布する。
- (2) 殺ダニ剤抵抗性の発達を防ぐために、同系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。
- (3) かいよう病の薬剤防除は発芽前、落弁期、梅雨期、台風前後を重点に散布を行う。
- (4) 黒点病は枯枝を発生させないように樹勢の維持につとめ、枯枝は見つけしだい除去する。被害は落花後から収穫前までの降雨に左右されるので、薬剤防除は4月上旬～6月中旬までに重点をおき、散布を行う。



図1 顕微鏡で見たサビダニ



図2 サビダニ甚発生 of 果実



図3 サビダニ被害状況



図4 顕微鏡で見たハダニ



図5 ハダニの葉被害

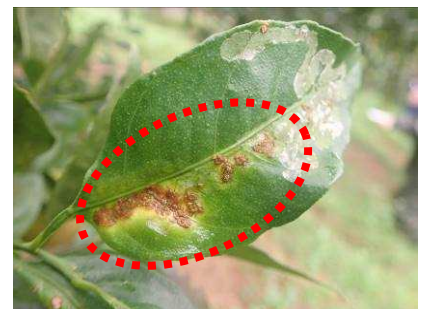


図6 かいよう病の葉被害

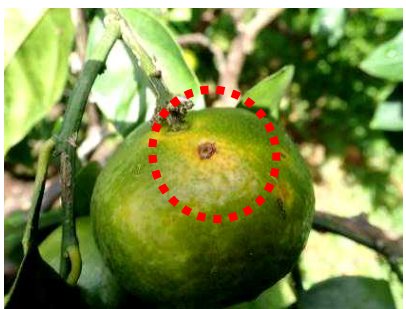


図7 かいよう病の果実被害

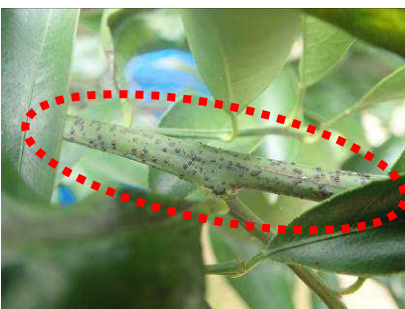


図8 黒点病の緑枝被害



図9 黒点病の果実被害

★詳しくは沖縄県病害虫防除技術センターにお問い合わせ下さい★

TEL : (本所) 098-886-3880、(宮古駐在) 0980-73-2634、(八重山駐在) 0980-82-4933
ホームページアドレス : <http://www.pref.okinawa.jp/site/norin/byogaichuboj/index.html>